

(5月の果実見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	入荷量(t)	占有率(%)	
すいか類		6,415	100	6,919	227	98	221	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 熊本産(約9割)中心に出回る。 作付け減少の流れは変わらない。 暖冬による生育の前進、その後の生育も良好であることから、入荷量は前年並みとなる見込み。 ただし、後半は前進化の影響により入荷が減る可能性もある。 価格は天候にも左右されるが、ほぼ前年並みの予想。
こだますいか		1,283	104	1,612	299	94	275	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産(約5割)、群馬産(約3割)、千葉産が出回る。 生育は順調で、主力の茨城産も入荷量は前年を上回る見込み。 価格は入荷量の増加に伴い、価格は前年並を下回る見込み。
メロン類		4,856	92	5,997	460	100	444	5	0.1	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産(約6割)、熊本産(約3割)、その他静岡産が出回る。 品種は、アールスメロン、アンデスメロン、クインシーメロンなど。 アールスメロンは面積が減少。価格については母の日までは堅調な販売が期待できる。その後は下げ足強まる予想。 クインシーは作付け減と前進栽培のため、5月の入荷量は前年を下回る見込み。
メロン(アンデスメロン)		1,272	100	1,841	439	100	426	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 茨城、熊本産が入荷の中心となる。5月は主産地が熊本から茨城への切り替えの時期となる。茨城産は5月10日頃から入荷予定。 全体の入荷量は前年並み。 玉の肥大も良く、食味も良好の仕上がっているが、消費が横ばい傾向にあり価格は前年並み。
りんご類		4,250	98	4,283	315	106	285	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 青森県産が中心となる。産地の在庫量は前年より少ないが、中晩かんきつ類の品薄から引き合いが強く、入荷は前年をわずかに下回る見込み。 価格については、販売堅調で前年を上回る見込み。
ぶどう類		249	100	354	1,362	99	1,261	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 山梨(5割)を中心に、大阪、島根産が出回る。 暖冬推移で作況は順調であり、入荷量はほぼ前年並みの見込み。作付けでは島根が大幅な増。 アレキサンドリアは例年どおりの出荷見込み。 価格は前年並みの予想。

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	入荷量(t)	占有率(%)	
いちご類		3,131	98	2,682	725	100	721	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木(約4割)、佐賀(約1割)、茨城(約1割)中心に出回る。 ・入荷はほぼ終盤、量は関東の草勢が弱く、入荷量は昨年を下回る見込み。下旬以降は北関東・東北産の比率が高まる。 ・九州産は栽培が前進化したため、入荷量はすくないと予想される。果房の切り替え時期(3番から4番)小玉傾向となる見込み。 ・価格は、軟調傾向ではあるが、ほぼ前年並みに推移するものと予想される。
あまなつかん		2,092	80	2,573	169	90	168	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本(約5割)、愛媛(約2割)中心に出回る。貯蔵量が少なく、入荷量も減少。サイズもM中心と小玉傾向で切り上がりは前年より早まる見込み。 ・価格は他の柑橘類が少なく、販売は堅調に推移すると予想される。
みかん類		342		419	1,162		1,128	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀産(約4割)、大分産(約2割)、宮崎産中心に出回る。 ・ハウスみかんがほとんどを占めるが、今年は中生、晩生種の入荷が少なく、価格は前年を上回る見込み。
おうとう		113	104	286	3,597	96	2,344	40	35.8	<ul style="list-style-type: none"> ・山形産(75%)が中心に出回る。他には山梨(12%)。山形産は前年並みの着果量を確保し、果実の肥大も順調であることから入荷量は前年をやや上回る見込み。 ・山梨産も着果量は良く、前年並みの入荷見込み。 ・価格はマンゴーとの競合もあり、入荷量増を反映し、軟調推移。
びわ		196	71	313	1,547	113	1,244	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎、千葉県産中心の入荷で全体の8割を占める。 ・5月の入荷量は前年の台風の影響(塩害)で着果が不安定。入荷量も大幅に減少する見込み。 ・贈答が主流である。需要は安定しており、価格は前年を上回る見込み。

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	入荷量(t)	占有率(%)	
マンゴー		119	120	115	1,732	130	1,229	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎(約4割)、フィリピン、メキシコ鹿児島が出回る。 ・国産のものは宮崎産中心の入荷となる。結果樹面積が増えているため収穫量も増加。入荷量は前年比2割程度増加の見込み。5月は知事のトップセールスがあることから、首都圏への集荷率が高まると予想される。 ・価格もギフトを中心に堅調に推移しており、5月もこの傾向が続くことが予想される。